

実家庭配付

思いやり通信



仙台市立黒松小学校

令和3年1月11日

第14号

2022年の幕開けです。

新年明けましておめでとうございます。冬休み中、子供たちはどのように過ごしていたでしょうか？ 私が子供の頃は「テレビばかり見ちゃいけません」とよく叱られていました。しかし、家に一つしかないこたつの部屋に家族が集まり、各々がTVを見たり年賀状を書いたり、初売りの広告を見たりしながら、家族団らんができていたように思います。各々がスマホやポータブルゲーム機にかじりつく現代の居間の風景が問題視されがちですが、大事なのは一緒にいる時間なのかもしれません。

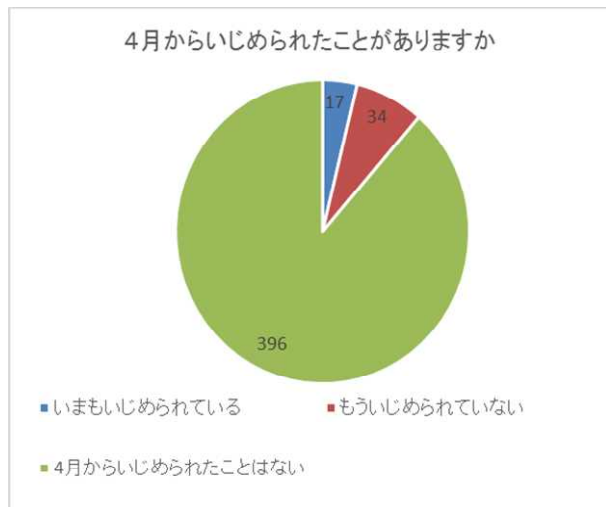
さて、冬休み中の図書室で、またまた紹介したい本に出会いました。ユニークでかわいらしい絵が特徴的なヨシタケシンスケさんの絵本です。『それしか ないわけ ないでしょう』は、コロナや地球温暖化の情報で子供たちの心に不安がまん延する世の中で、冷静な判断力がいかに大切かを気付かせてくれます。

『みえるとか みえないとか』は、障害というものをちょっと違ったアプローチで考え直す機会を与えてくれる作品です。パラリンピックで多様性を認め合える世の中にしていこうという気風が高まりつつある今こそ、自分たちの考える「当たり前」を見直していきたいと感じました。

最後に紹介するのは『なんだろう なんだろう』です。子供たちが日常で出会う様々な疑問。学校ってなんだろう、うそってなんだろう、友達ってなんだろう。ストーリーはそんな根本的な疑問を、共に考えていくスタイルで進んでいきます。大人の私でも読み応えのある、深く考えさせられる内容でした。読み流すのではなく、自分の心が何らかの「答え」を求めているときこそ、読み深めてほしいと思える作品です。

今回紹介した3冊は「違う視点で物事を考えてみる」ということで共通していると思います。人を思いやる気持ちってそういうところからスタートするのではないのかなあと考えさせられました。

仙台市いじめ実態把握調査



左のグラフは11月に実施した仙台市いじめ実態把握調査の黒松小の結果です。「4月から調査実施日(11月12日)までにいじめられたことがある」と答えたのは447人中51人(いじめられた11.4%)でした。ただし、この51という数字には「いじめの内容を覚えていない」や「間違えて『ある』に○をつけてしまった」というもの、単にいやだという感情を抱いたから○をつけたもの(鬼ごっこで捕まえられたのがいやだった等)も少なからずあることを付け加えておきます。また、この仙台市の調査で「ある」に○をつけた場合は、教職員による聴き取りの時間が設けられて自分の保護者にも相手の保

護者にも連絡がなされることを説明した上で実施しています。(保護者の方にも思いやり通信12号等でお伝えしています。)本当は日々心に苦痛を感じているのに「親に心配をかけたくない」「大ごとにしたくない」という思いから「ない」に○をつけた児童もいるかもしれません。

アンケート結果の数字だけにとらわれることなく、私たちは日々子供の心に寄り添い、いじめのサインを見逃さない体制を整えていきます。

いやな気持ちになったら・・・

以前もこちらに掲載させていただきましたが、現在は法律で「された側が心身の苦痛を感じたらいじめ」と定義されています。つまり「いやな気持ち」にさせてしまったら、掃除のやり方を注意することも、相手が「いじめと感じた」らいじめになってしまう可能性があります。しかし今回の仙台市いじめ実態把握調査結果から「いやな気持ちにさせられた」ら「いじめられた」と捉えて良いかと問われれば、私はそうではないと感ずることができました。

一人一人違う家庭環境で暮らしている子供が、学校という狭い空間で6時間以上も一緒に過ごしているのですから、時に、相手の「言い方」や「態度」で「いやな気持ち」を抱くのは当然のことだと思います。しかし調査では88.6%もの児童が「4月からいじめられたことはない」と回答しました。子供たちは法律の定義に縛られることなく、自分と他者との関わり方を俯瞰(ふかん)で捉え、いじめなのかそうでないのかを冷静に判断しているようにも感じました。要は「いやな気持ち」との向き合い方なのだと思います。その意味でもう一冊だけ、ヨシタケシンスケさんの絵本『ころべばいいのに』をご紹介します。子供だけではなく「いやな気持ち」との向き合い方に苦しむ全ての人におすすめする作品です。